

2年4組近況

今日は授業参観，育友会総会，懇談会への参加，おつかれさまです。

学年としての方針や，全体の様子などは別紙がありますので，クラスの様子を少しお伝えしましょう。

1. 全体的には落ち着いた雰囲気

全体的に見ると落ち着いた雰囲気であると言っていいでしょう。

騒がしくてどうしようもないということはないし，授業中はまじめ。

でも一部やかましい人，けじめのない人はいるんです。

2. 積極的な取り組みがいろいろと見られる

年度初めの係決めでも，ついこの間の合唱コンクールの伴奏者，指揮者決めでも，立候補が多い。

これは4組の素晴らしいところです。

数学の授業でも，問題を黒板に答合わせするときには手を挙げて解答者が出てくる。

こんな積極性があるクラスです。

3. 提出物の出が悪い。

いよいよ悪い点。(いいこと2つしか書いてないけど)

この学年の提出物の悪さは，1年生の時からのもの。

懇談会の出欠もそう，宿題の提出もそう。締めきりにそろうことがない。

4. 行動が遅く，けじめのない人がちらほら

最近，終礼が定刻に始まらない。内容は3分で終わるのに，開始を待つのに7～8分。予定聞いてきてないし，集まりも悪いし，始まってもしゃべっている人もいる。会長の号令でしっかり行動できない人もいる。これは困りものです。

5. 遅刻者が固定化しつつある

たいていの遅刻者は後ほんの5分のことです。5分早く家を出てくれば間に合います。

それだけの努力をしてもらいたいものです。

6. 掃除がいい加減な人が出てきた。

「掃除には愛を込めて美しく」のスローガンもむなしく，着替えが遅い，着替えてない，掃除場所にいない，仕事していない，そんな人が目立ちます。

でも逆に，誰に言われるでもなく，黙々と仕事する人もいる。そんなのみんな担任は観察しています。

だけど，今のところ担任は楽しんでこのクラスを受け持っています。この学校の目標は「楽しい学校をつくらう」担任が楽しくない学校は，きっとみんなも楽しくないですね。

ということで，担任の願う2年4組の生徒は

面白くて，賢くて，丈夫な子

人間的な魅力にあふれてなくてはなりません。おもしろい子になってほしい。

それと，勉強ができるという意味ではなく，賢い子に。つまり，いま何をしたらいいのか，何を言ったらいいのか分かって，思いやりのある子。そんな賢さが求められている。

そして，何はななくとも健康第一。病気せず（肉体的にも，精神的にも）元気いっぱい，「学校に来るのが楽しい！」といえる子になってほしいですね。

— 20年ぶりの再会 —

おまけの話

先週の土曜日、つまり一昨日、昔持った子どもたちのクラス会があった。卒業してから20年ぶりである。ということはすでに彼らも35歳くらい。もはや子どもたちってことではなく、立派なお父さん、お母さん、そしておじさん、おばさんである。

参加人数は15人。幹事によれば、所在が分かって連絡が取れた人のうち、金沢近郊にいる人はほとんどみんな来てくれたそう。出席率がいいんですよと言っていた。

女8人、男7人であった。中学生の子どもを持つものもおれば、独身もいる。職業もさまざまだ。それでも顔を見れば昔の面影がそのまま残り、昔話やら、近況報告でずいぶん盛り上がったのだった。

その1次会の店も同級生の経営する店で、平和町にある「ビストロ風」という。おいしい料理がいっぱい出てきたが、何しろみんなしゃべるのに夢中。おいしい料理も残りがち。だが、おしゃべりも立派な料理である。おしゃべりでずいぶんワインとビールが飲めるのである。

このクラスは自分が初めて持った3年生である。新採で赴任した学校で、学年を1年、2年、3年と持ち上がり、そして持ったクラスであった。その時の学級通信は「 $3 \times 3 = 10!$ 」(さざんがじゅう!)という。3年3組だったのだが、 $3 \times 3 = 9$ ではなくて、あと一つ超えようということで $3 \times 3 = 10$ だった。

はじめの挨拶と、乾杯の音頭だけはしゃべったが、あとはみんなとわいわい思い出話に花が咲く。

「みなさんは初めて持った3年生でした。」というように「知らなかった。」という声しきり。こちらは進路のことにしても、内申書書くことにしても、初めてのことばかり。とにかく必死でやっていたのだった。しかし、生徒たちにとってみればどの先生も同じであり、自分たちの担任に進路のことを頼るしかない。つまり、この教師という仕事、年齢に関係なく皆同じように仕事をし、皆同じように責任があり、生徒たちにとっては同じ先生なのである、という当たり前のことを再確認したのだった。

彼らとは約10歳ちがうのだが、こうやってみんな社会人となると、もはや年齢差というのが関係なくなってくるものだ。ちなみに10歳ちがいくらいだと、よっぽどこちらより年上に見えたりするものもいるのである。「先生もっとお腹出てるかと思ったのに、ちっとも変わりませんね。」「もしかして、今日のためにダイエットしてきた?」「髪の毛まだあるね。」「白髪多いよ。」などといいたい放題である。

10歳ちがいというと、中学時代では約2倍近い差。しかし20年もたてば、すでに1.3倍もない。ましてや、こちらが70ならあちらは60。似たようなものとなる。そして、社会人というまったく対等な立場になる。

そして中学時代をふりかえって言う「あんときもうちょっと勉強しとけばよかったぞいや。」しかし、そう言う彼も立派に人を使う立場になっている。「あれ定時制やったけど、よー考えりゃ、あんときゃ先生にたくさん迷惑かけとったわ。」ふむふむ、それに気が付いているということは、さすが成長しているものである。

「中学んときゃ、掃除も挨拶もいい加減やったけど、社会に出たら、すぐに掃除も挨拶もせんらんようになったわ。」「だけど先生、今の若いもんはなんで挨拶できんが?挨拶は基本やがいね。」そうそう、そうなのだ。こういう感想は人を使う立場になった教え子からいつもよく聞く感想なのである。商売をして、人を相手にするようになったときには、まず挨拶が基本なのである。

しかし、女の子はやはり母である。「先生、塾の勧誘が多くて困るんですよ。」とか「勉強にやる気出さないんだけど、どうしたらいいでしょう。」とか、我が子の相談が多い。ちょっとくらい勉強ができなくても、何とかなるわいね。だって、20年後のみんな見てたらそうだろう。あのと時勉強できたからって、そんなに関係ないや。と、あのと時「勉強しろ」としつこく言っていたことと反対のことを言う。だが、彼らを見てみると、ほんと結局はいかに人間をみがくかということになる。どんな高校出てても、魅力のない人間はいる。そして、高校なんかには関係なく、幸せな人生を歩むものがたくさんいる。

今、一番遠くにいるのが、ドイツにいる女の子。薬学部出たあと、大学院まで進んだらしい。そして今、ドイツのマックス・プランク(だったかな?)研究所とやらで、研究中だそう。うーむ、賢いもんはやっぱ賢い。

1次会は6時から9時までの予定が、とおに10時を過ぎる。でそれから片町へ出て、2次会である。これまた教え子に連れられていく。これまたみんなしてしゃべり続けて盛り上がる。時には女の子とデュエット。そして気が付けば午前1時半を過ぎる。時間のたつのも忘れた1日だった。

片町の路上で女の子たち(いやおばさんたち)は携帯の番号交換をしている。彼らはそこからまたどこかへ行くらしい。だが、したたか酔った元担任は、やはり10歳の年の差で、これ以上ついて行くことができず、みんなにお礼を言って去ったのであった。